

心サルコイドーシス

③ 心エコー

心サルコイドーシスの典型的なエコー所見を呈するのは、サルコイドーシス全体の14%とされており、心エコーの診断感度は低い。

① 心室中隔の菲薄化

心サルコイドーシスの診断において特異度が高い。
大動脈弁輪から心尖部寄り1cmの位置でIVST4mm以下。
同部位でのIVSTが健常IVSTの60%以下でも特異度99%。
心室中隔基部への浸潤は、AVブロックの原因となる。
LV壁菲薄化39例中基部中隔菲薄化は30例。

② HCM

心サルコイドーシスの中には壁肥厚を呈しHCM様に見える例がある。
またRV自由壁の一過性の壁肥厚を来す例もあり。

③ Asynergy

基部中隔Asynergy (17/43)
びまん性Asynergy (20/43) ≒ DCM類似
特にIVS (とくに上部中隔)、LV後側壁、PMを含むLV自由壁、RV自由壁 (RV拡大) に注目。
壁肥厚部や、正常壁運動を呈する部分が混在しているときは注意。

④ 心室瘤 (8/46)

心サルコイドーシスの8~10%に認められる。
心室瘤の壁成分は線維化組織であり、治療抵抗性の心室性不整脈の原因となる。
ステロイドは、心筋の線維化を促進する可能性あり。

⑤ 心膜液貯留

心サルコイドーシスの2~8%
これらの症例では心外膜側心筋にも類上皮細胞肉芽腫を認める。
心タンポナーデを来す事もある。

⑥ MR

心拡大のため。
乳頭筋機能不全のためMVPを呈することもある。
サルコイドーシスでは高Ca血症を呈することがあり、ときにMVの高度の石灰化を示す症例がある。

⑦ PH

重症肺サルコイドーシス例ではPHのためにRA・RV拡大、IVSの扁平化 (D-shape) などの所見を呈する。

⑧ LA内腫瘍、IVS内腫瘍

サルコイドーシス結節による。